

2018 2/13

No.2060

毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



節分の3日、箱根神社で「節分追儺（ついな）式」が執り行われた。芦ノ湖では鬼の格好をした大学生らが、水上スキー やモーターボートで疾走した。



contents

視点・点描	3
100回大会は新たな出発点	
講演録	4
明治150年後、平成30年後の政治を展望する 時事放談キャスター、東大名誉教授 御厨 貴	
政治	8
地方創生は都市との相互交流で 野田総務相、今年の課題語る	
社会	10
地域づくりは人づくり 埼玉・横瀬町の教育にヒント	
社会保障	12
人口減にどう対応するか 非正規雇用、未婚増が少子化に拍車	
企業最前線	14
協働ロボットの導入が本格化 メーカーも開発加速	
くらし2018	16
進歩する脳血管内治療	
広告珍談	18
広告はたのしい⑤ フネと汽車の博覧会	
NNAアジア経済リポート	19

事務局だより

◇2018年3月定例講演会

2018年3月14日(水)

午後1時30分～3時

横浜情報文化センター6階

「情文ホール」

講師は政治学者、東大名誉教授の姜尚中さん

演題は「『ポスト真実』の時代をどう生きるか」

※本講演会には神奈川新聞読者も招待します。

視点



を救つてもらつた」。

青春を思い起させる。

戦後まもなく、豊かとはいえない中で、青年達は野球に夢中になることで様々なことを学び、友を作り、人生を切り開いてきた。そしてそれは、同時代を過ごした球児以外の人たちにも、同じ記憶として共有されている。

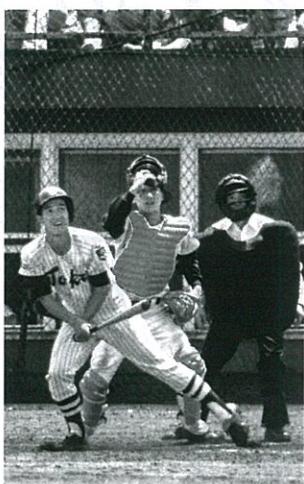
記憶に残る高校野球を振り返ることが、それぞれの世代を語ることになる。そんな魅力が、100余年という長きにわたつて人気を博してきた理由なのではないか。

100回大会は新たな出発点

高校野球の夏の甲子園大会が、今年で100回目を迎える。その間、高校野球は常に多くの人の関心を集め、記憶に残るドラマを生んできた。大相撲やプロ野球と並び、国民的スポーツといつていいだろう。

今、神奈川新聞では100回大会を契機にした100回連載を掲載中だ。その取材で記者が現役のプロ野球選手から齢70を超えたかつてのスター選手まで、お伺いして話を聞いていく。

なぜ、高校生の野球がそこまでの人気を保っているのか。そこには単なるスポーツを超えた、世代的な共感があるのだと思う。



辰徳3年の夏。フィーバーもピーク

かつての名選手達は口をそろえる。「あの頃は野球しかな

（神奈川新聞社運動部長 和城 信行）

フネと汽車の博覧会

フネの博覧会といつても、フネを展示する博覧会ではない。博覧会を開催する会場が、フネなのである。そのフネは、ロゼッタ丸といふ。

1906（明治39）年のこと。

現役で動けるロゼッタ丸が会場だから、あつちこつちへ行ける。入

港してそのまま、博覧会が開かれた。港町の人びとは、ミナトへ行こう、博覧会を見にいこうと押し

ねは半島をまわって沼津へ「第四回開会場」。さらに江戸へとつづいている。

太いロープでかこまれて、ロゼッタ丸の写真。イギリスで建造された客船で、日本が買収。

9月10日から11月1日まで、ほ

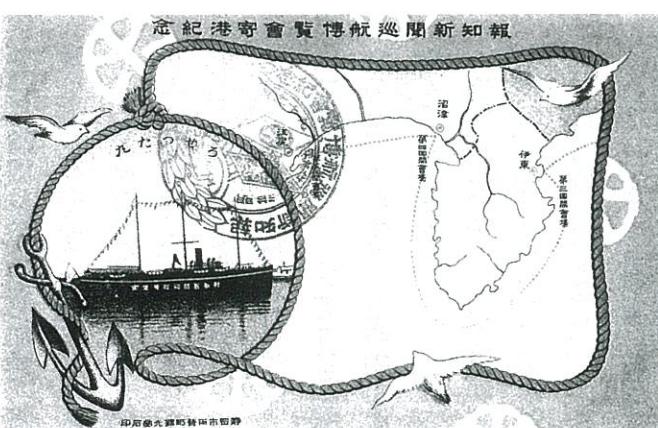
ぼ50日間。東京・横浜・伊東・沼

津・江戸・大阪・神戸・高松・徳島・宇品・門司・長崎・鹿児島を

巡回した。

図は、県内3カ所のミニトで開

は隨筆『東京繁昌記』に、「芝



汽船を濡につないだ異觀。それを改造してホテル仕立てにした。僕の絵ハガキ。上に右書きで「報知新聞巡回博覧會寄港記念」。カモメが飛ぶ地図には、伊豆半島と駿河湾。……線はロゼッタ丸の航跡。伊東に「第三回開会場」とある。明にスケッチした」。

おまえフネなら、おいらはポツチ。芝浦に係留され、ホテルになつた。

浦の埋立がはじまる頃、忽然として“海”の中に、長い桟橋伝いに行く。ロゼタ・ホテルという、大

最初の記憶が、この大きな胴体の色塗りに太い赤線を入れたロゼッタ・ホテルを、芝浜館の室から克

主催は大阪時事新報社。どこかで、

フネ博覧会と出くわしたにちがいない。

おもしろいのは、下駄での入場禁止。そのころ、列車は木の板張り。下駄ばきの音がほかの観客にめいわくと、「靴または草履のお用いの事」と注意書き。下駄は風呂敷に包んで車内に入った。ハダシだったのかな。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住)(図)報知新聞巡回博覧會寄港記念絵はがき。「別冊太陽 日本の博覧会 寺下勅コレクション」2005年・平凡社刊より